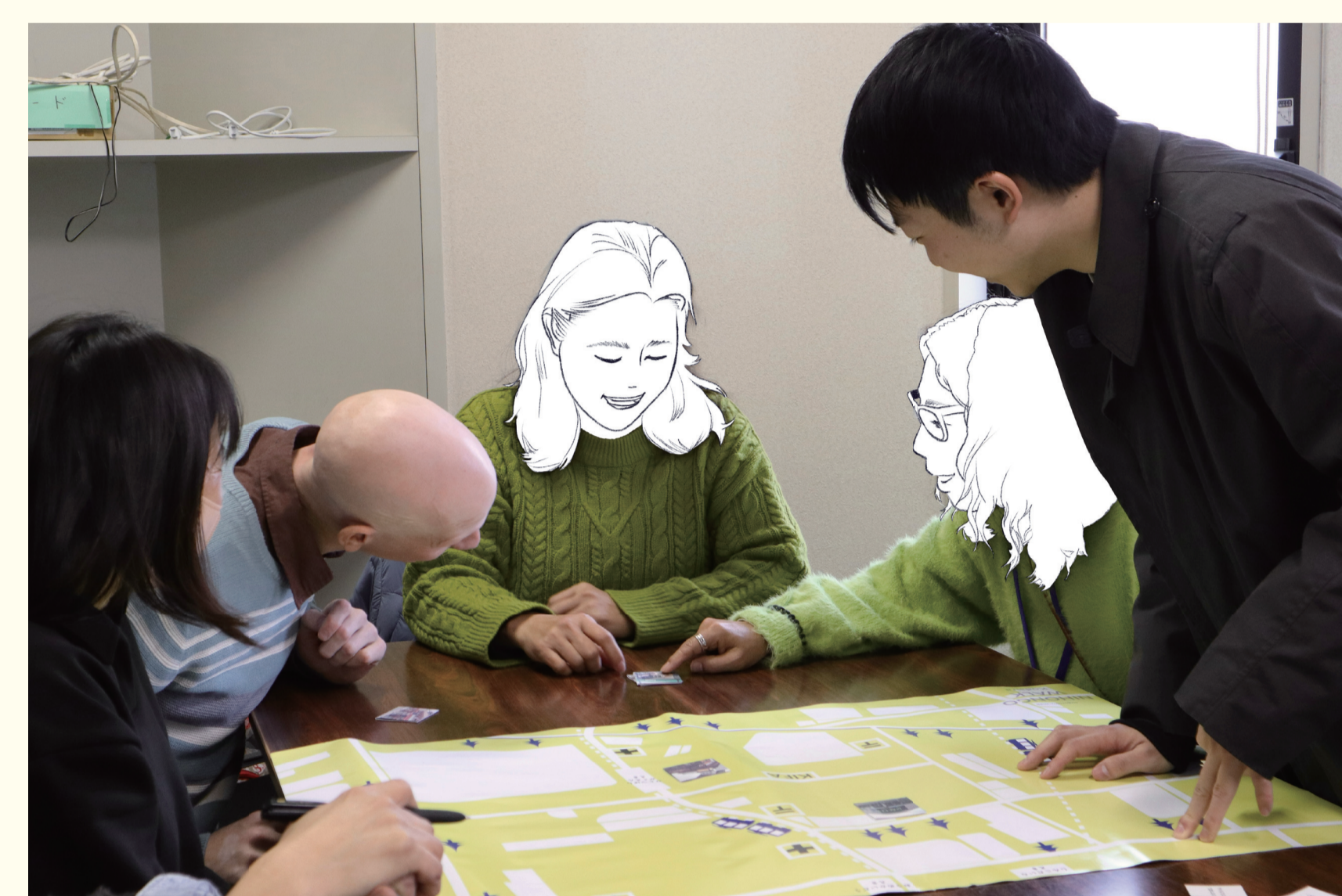


情報デザインA

身の回りの社会的な現象がどのような関係性によって成り立っているのか、また、デザインによってどのような変化を起こすことができるのかを、学生たち自らが現場に飛び込み、実践を通して考える視覚伝達デザイン学科3年次の通年授業です。後期には「小平市の多文化共生のためのデザイン」をテーマに、外国ルーツの方々の支援を行う一般社団法人小平市国際交流協会(KIFA)の活動に学生グループが入り、市民ボランティアの人々、外国にルーツを持つ方々とともに活動を行います。

学生は地域コミュニティという実在する関係性に実際に関わることで、デザイナーという役割の可能性を自分なりに認識し、その後のデザイナーという人生をおくる上で大切な主体性や、コミュニケーションのあり方を考えます。

- 地域の支援活動やイベントに参加し、団体やそこに関わる個人の、地域における関係性を知る
- 文献調査や専門家へのヒアリングから、多文化共生社会の意味や意義、課題に触れる
- 活動への参加体験から、コミュニティの関係性をどうしたいか、デザイナーとしてできることを検討し、他者との対話と試作を繰り返す
- 対話の中で学生はさらなる思考と出会い、デザイナーという役割の可能性や、関係性の中でデザインすることの意味を自ら問う



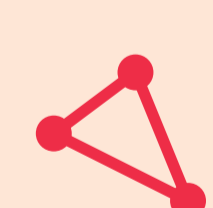
学生たちが提案した「Nihongo Walk Kodaira」をボランティアや利用者の方々と試している風景



学生たちが提案した「子育てお悩みdoor」をナイジェリアから来たお母さんが体験している様子



授業の最後に、KIFAの職員の方々、ボランティアや利用者の方々、学生たちで成果を共有する会を実施。皆で今後の多文化共生について話し合った



連携先

一般社団法人小平市国際交流協会
(KIFA)



担当教員

北崎允子
大田暁雄
李ナレ(視覚伝達デザイン)



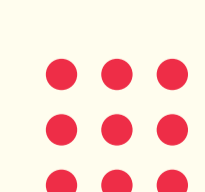
実施期間

2022年～



参加学生の学科

視覚伝達デザイン学科



参加学生人数

11人～25人